

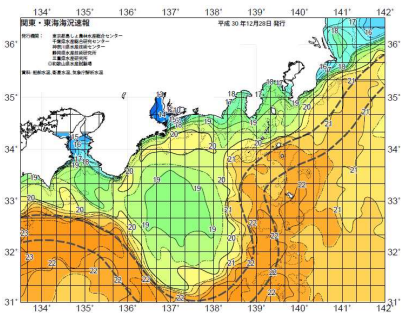
平成31年1月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

## 伊豆東岸定置網 2019年上半期漁海況予報

伊豆東岸定置網における2019年上半期の漁海況

海況	黒潮は期間を通してA型で推移する。沿岸水温は「平年並」で推移し、黒潮の流路変動により「低め」及び「極めて高め」となる。
マアジ	漁獲は前年を下回る。尾叉長20cm前後主体。
マサバ	漁獲は前年並。尾叉長30～35cm主体。
ゴマサバ	漁獲は前年並。尾叉長30～35cm主体。
マイワシ	漁獲は前年並。被鱗体長13～15cm主体。
カタクチイワシ	漁獲は低調な前年並。被鱗体長9～11cm主体。
ブリ	漁獲は前年並。但し、海況により増減する。ぶり・わらさ銘柄主体。

神奈川県水産技術センターと共同で、平成31年上半期（1～6月）の漁海況を予測しました。近年、伊豆東岸定置網における水揚量は減少傾向にあります。マサバ、マイワシ、ブリ資源は高水準であるため、海況次第ではまとまった入網が期待できます。黒潮は大蛇行流路が継続する見通しであり、解消の兆候が見られないことから、今後数年間継続する可能性も示唆されています。伊豆地域では、海藻が消失する「磯焼け」等の悪影響が懸念されますので注意が必要です。



2018/12/28  
の黒潮流路→

### イセエビ幼生の大量採集

伊豆分場では、人工海藻を植え込んだ採集器を白浜漁港岸壁に垂下し、これを週に数回引き揚げ付着したプエルルス幼生を計数する調査を実施しています。採集尾数は当地に補給された幼生の資源量を表す指標と考えられていますが、今年6～9月の採集尾数は計83尾で、1採集器1日当り採集尾数0.43尾は平成以降で最高水準となりました。

幼生は2年後に刺網漁で漁獲される大きさ(体長13cm以上)に成長することがわかっているので、その後の生残状況が良ければ2年後の好漁が期待されます。↑体長約2cm、透明なプエルルス幼生



解説：プエルルス幼生：卵から孵化した幼生は、約1年間、沖合で浮遊生活をした後に遊泳力のあるプエルルス幼生に変態し、沿岸の海藻等に着底する。

### 長崎五島地区漁業士が伊東へ視察

12月11日に長崎県五島地区の漁業士4名がキンメダイ本釣について視察研修のためにいとう漁協を訪れました。いとう地区の4名の漁業士から漁場探索の方法や操業方法、漁具の仕立て等の説明があり、意見交換が行われました。近年西日本でもキンメダイ漁業が増えており今後の展開に注目したいと思えます。



↑船上でキンメダイ本釣漁具を説明

**1月の予定** ●フェリーを利用した西伊豆産水産物の静清地区への試験流通を実施します。 ●漁業士認定式が静岡市で行われます。 ●西伊豆海域のガンガゼ調査を行います。 ●キンメダイ漁場におけるサメ、パラムツの食害対策を行います。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu